事例No.	2409
公表年度	R5
団体の属性	一般市
団体名	鹿児島県鹿屋市

事例区分	地域活性化

タグ	・関係人口 ・地域運営組織 ・少子化・人口減少

事例種類	関係人口

事例内容・タイトル

「学び」を核にした交流によるアンチエイジングなまちづくり

出典

総務省ホームページ

「学び」を核にした交流によるアンチエイジングなまちづくり（鹿児島県鹿屋市菅原地区）

R4.11時点

【事業背景】

〇地域の交流拠点がなく、耕作放棄地や空き家も増加している中、地域資源をなかなか生かし切れていない現状
〇地域住民が主体的に課題解決に取組み、そこに都市部の若年者層が関わることで持続していける地域を目指す。

【事業実施主体】
菅原地域づくり協議会
【R3交付金活用額】24,829千円

【取組内容】

【令和3年度に実施した事業】

①旧小学校に地域住民がつどう機会を設け、地域交流の拠点を形成。体験型教育ツーリズム、地域サポーターバンクはシステムを構築
②耕作放棄地を再生し、収穫体験会を3回実施するとともに移動式農園レストランをデモ的に開催
③空き家活用アイデアのワークショップを行うとともに、空き家をDIYで「若返り」をしてコミュニティスペースとして活用
④土産品の開発（ご当地ジンジャーエール含む3品の開発）

（地域の保健室の様子）



（移動式農園レストランの様子）



（ワークショップの様子）



（DIYによる空き家整理の様子）



【成果（令和3年度）】

・地域の保健室などつどう機会を設けたことにより、町内会を越えた地区内の住民間交流が活発になった。
・地域サポーターバンクはシステム構築が遅れ、登録者は0人（https://app.sugahara-community.com/）
・DIYにより1軒の空き家が「若返り」に成功

【令和4年度実施予定の取組】

①つどいの場、体験型教育ツーリズムのプログラム拡充とともに、地域サポーターバンク登録促進を図り、関係人口の増加につなげる。
②体験イベントを引き続き実施し定着を図る。
③若返った空き家を活用し、新たな交流機会を創出する。
④開発した土産品のPRを促進し、自主財源の確保に努める。